

田中一村

たなかいつそんきねんびじゅつかん

記念美術館

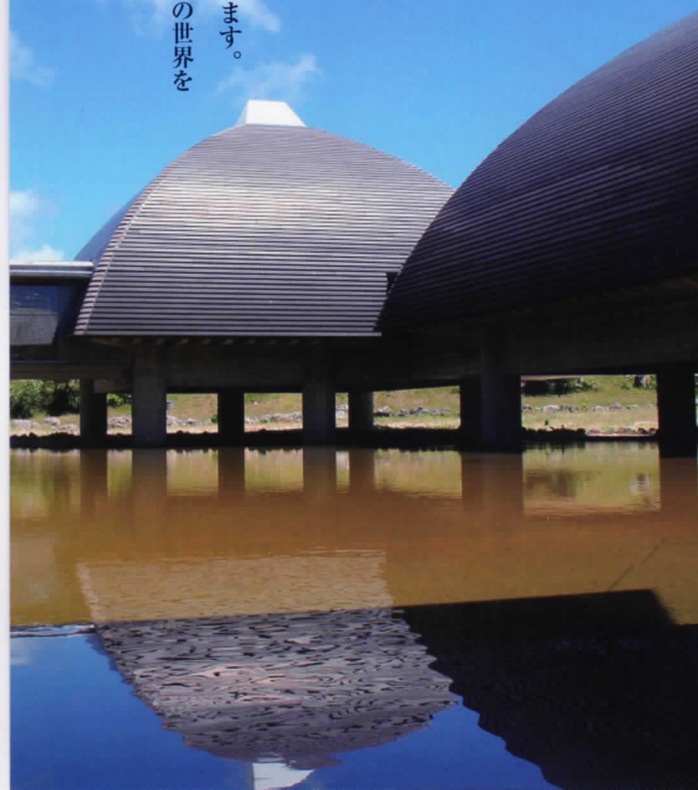


不喰芋と蘇鐵



白い花

田中村記念美術館では、
年4回入替を行い、
80数点ずつ常設展示しています。
また、館の周辺には村の絵の世界を
亜熱帯の植物で再現した
「村の杜」があります。





田中一村(たなか いっそん)

明治41年(1908)、栃木県に生まれる。幼い頃から画才を発揮し、7歳の時、父稲邨より「米邨」の号を与えられる。大正15年東京美術学校入学後、わずか2ヶ月余りで中退。その後南画家として活動する。第19回青龍展に「白い花」を出品入選するが、その後中央画壇に入選することはない。

昭和33年50歳で奄美大島に移住。紬工場で染色工として働き、蓄えができたなら絵を描くという生活をくり返し、亜熱帯の植物や動物を描き続け、独特の世界を作りあげた。絵かきとして、清貧で孤高な生き方を通した一村は、昭和52年69歳でひっそりと誰にも着取られずにその生涯を閉じた。

その後、一村の作品の一端が紹介されると大きな反響を呼び、少しずつ一村の素顔が世の中に知られるようになった。

特別展示室(有料)



一村生誕100年の年に増築されました。田中一村が青龍展で入選を果たした《白い花》や、徹底した観察と描写による《花と軍鶏》などの屏風や襖絵を展示しています。回廊部分には、奄美出身の彫刻家「重村三雄」氏の代表作《いび銀の世界》を展示してあります。

常設展示室(有料)



〈東京時代〉

幼くして画才を現し神童と呼ばれた頃の色紙や、米邨と名乗っていた頃の南面の作品を展示しています。

〈千葉時代〉

30歳で千葉に移り住み、身近な自然を観察して描いた風景画や花鳥画を展示しています。また、47歳で九州、四国、紀州を旅して描いた色紙も展示しています。

〈奄美時代〉

奄美の自然を描き一村芸術が花開いた作品の数々を鑑賞できる最も見どころのある展示室です。「この絵だけは誰にも譲れない、閻魔大王へのお土産なのですから」と一村が語った作品も展示しています。

企画展示室(無料)



「奄美からの発信」「奄美への発信」をテーマに、奄美在住の芸術家や奄美出身の芸術家の作品を、企画展示しています。また、貸し出しもしています。

ガイダンス室



「孤高の画家 田中一村」を上映。毎時15・45分(約20分間)最終上映は17時15分(夏期は18時15分)

喫茶・ミュージアムショップ

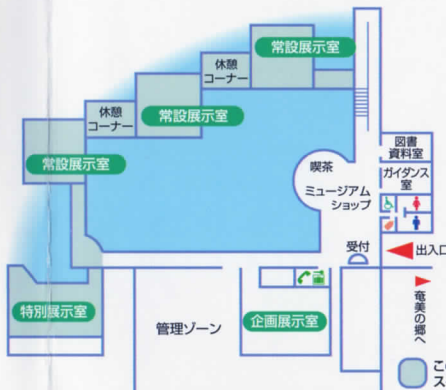


くつろぎの喫茶でひと休み。ミュージアムショップでは、一村関係の書籍やオリジナルグッズを販売。

図書資料室



美術・芸術関係の書籍や、美術雑誌等常備している他、ビデオコーナーがあり、「黒潮の画譜 異端の画家 田中一村」(昭和59年放映)のビデオも見ることができます。



この色の範囲は有料スペースを示しています。